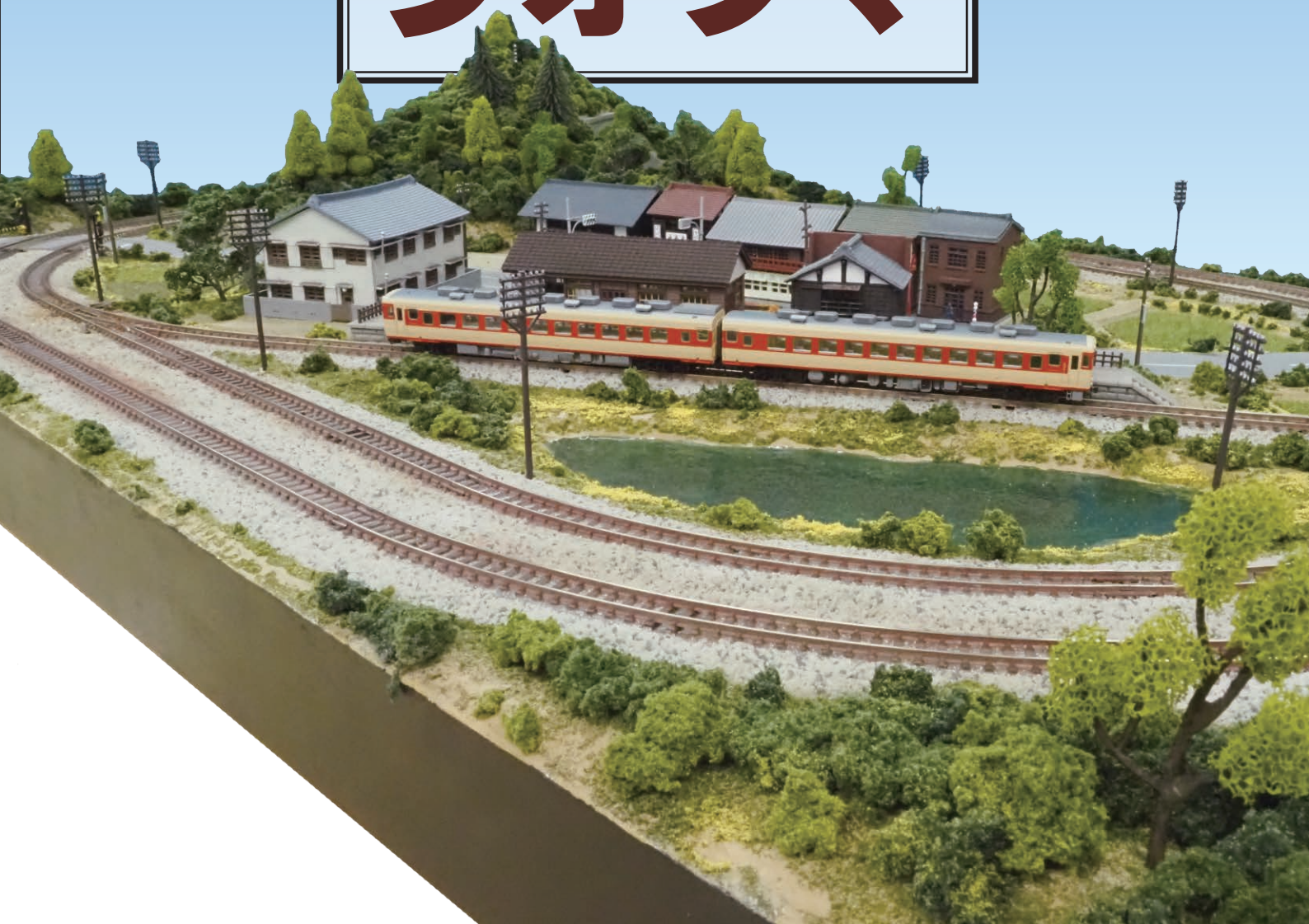


はじめてつくる 本格鉄道 ジオラマ

ステージ

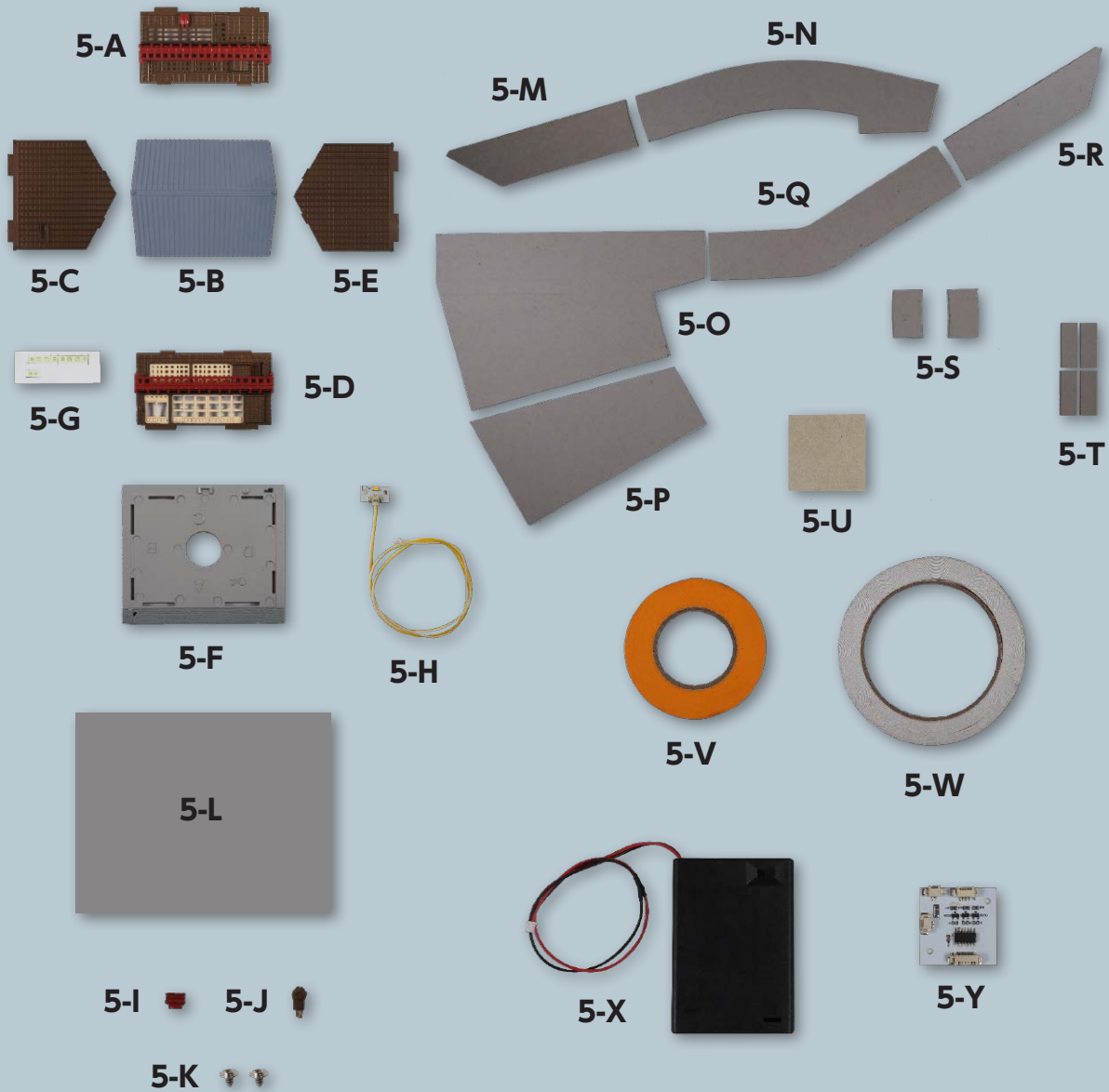
5



はじめてつくる 本格鉄道ジオラマ

ステージ 5：雑貨屋をつくる、道路を敷設する

パーツリスト



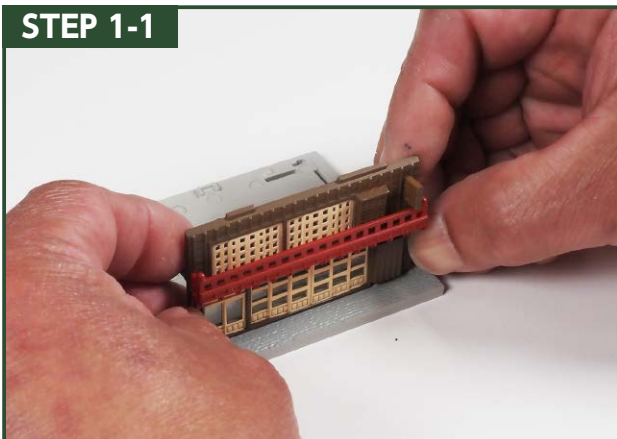
※作り方ガイドの写真は、実際に提供するパーツと仕様などが一部異なる場合があります。

- | | | |
|------------|----------------------------|--------------------------|
| 5-A 裏外壁 | 5-J 装飾品② | 5-R 道路盤⑤ |
| 5-B 屋根 | 5-K LED固定用ネジ(2本) | 5-S 踏切渡り板(2枚) |
| 5-C 左側外壁 | 5-L サンドペーパー
(道路表面として使用) | 5-T 道路盤傾斜部固定用厚紙
(16枚) |
| 5-D 正面外壁 | 5-M 道路盤① | 5-U 道路盤長さ調整用厚紙 |
| 5-E 右側外壁 | 5-N 道路盤② | 5-V マスキングテープ(30mm幅) |
| 5-F 基礎部 | 5-O 道路盤③ | 5-W 両面テープ(50mm幅) |
| 5-G 装飾用ラベル | 5-P 道路盤高さ調整用厚紙 | 5-X バッテリーボックス |
| 5-H 照明用LED | 5-Q 道路盤④ | 5-Y テストボード |
| 5-I 装飾品① | | |



STEP 1：雑貨屋をつくる

STEP 1-1



5-D正面外壁を5-F基礎部の所定の位置に差し込む。



差し込むと写真のようになる。

※この段階では基礎部に正面外壁は接着しない。
あくまで壁4面を組み立てるためのアタリとして基礎部を使用している。

STEP 1-2



5-E右側外壁を基礎部の所定の位置に差し込む。



正面外壁内側の写真で示した位置にある爪に、少量の強力接着剤を塗布する。

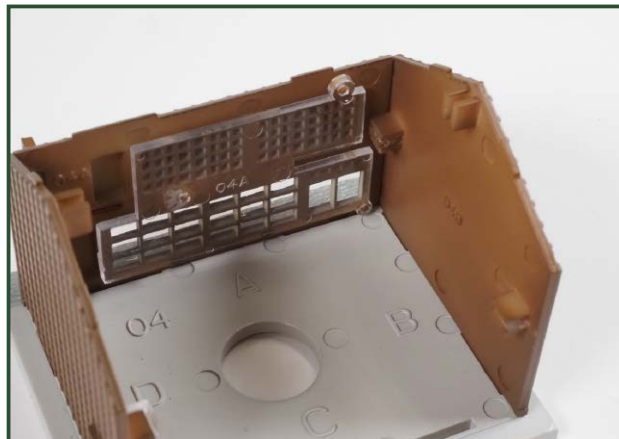


写真のように正面外壁と右側外壁を接合する。

STEP 1-3



正面外壁の反対側の爪に、少量の強力接着剤を塗布する。



5-C左側外壁を取り付けると写真のようになる。



ステージ5 雑貨屋をつくる、道路を敷設する

STEP1：雑貨屋をつくる

STEP 1-4



写真のように、5-A裏外壁の両端の爪に、少量の強力接着剤を塗布する。



STEP1-3で組み合わせた左右外壁に裏外壁を取り付ける。



壁4面を全て取り付けると左の写真のようになる。

STEP 1-5

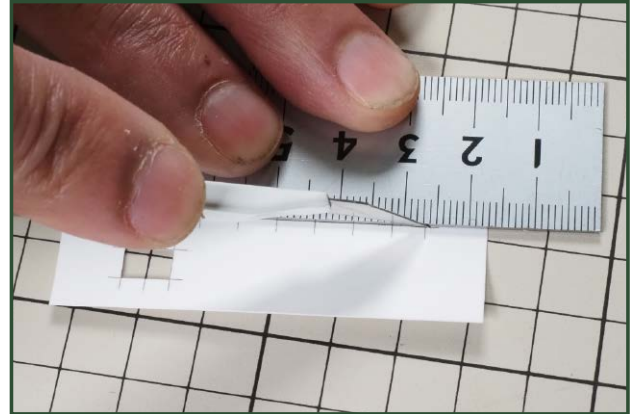
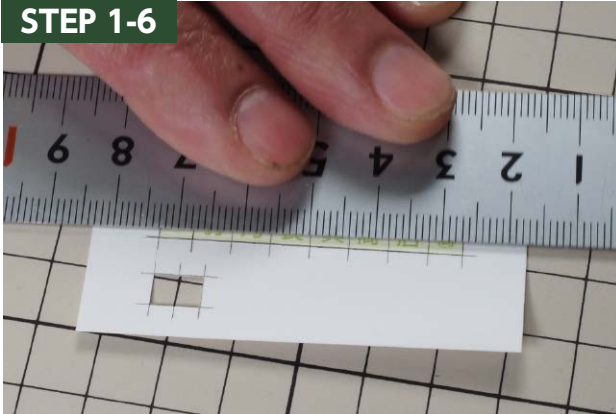


5-G装飾用ラベルを用意し、先ず「商」と印刷された部分を切り出す。カッターの刃が罫線にきっちり沿うように注意しよう。



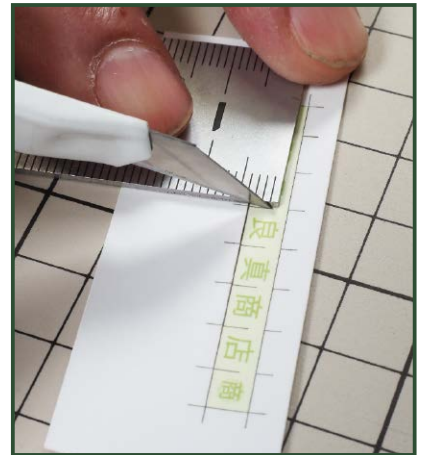
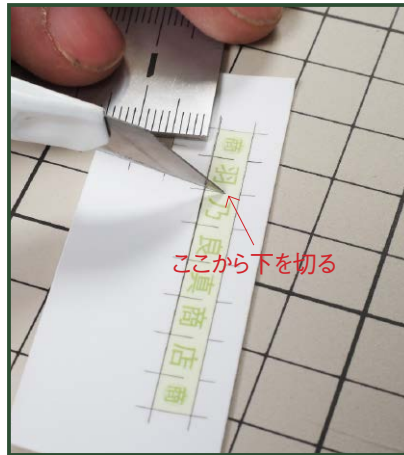
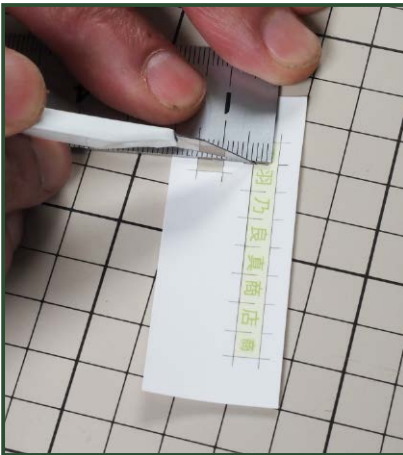
STEP1：雑貨屋をつくる

STEP 1-6

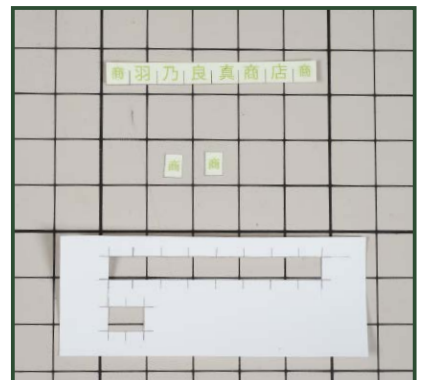


次に「◇羽乃良真商店◇」と印刷された部分を切り出していく。 先ず文字列下部の罫線に合わせてカットする。

※写真では「商 羽乃良真商店 商」と印刷されたものを使用しているが、提供されるラベルは最初と最後の「商」が「◇」へ変更されている。



暖簾の感じを出すために、文字と文字の間は下半分だけカットしていく。罫線に合わせて切り出していこう。



文字列の両端部は、上部の罫線部分からカットする。

最後に、文字列上部の罫線に合わせてカットする。

切り出しが終わると、写真のようになる。



STEP1：雑貨屋をつくる

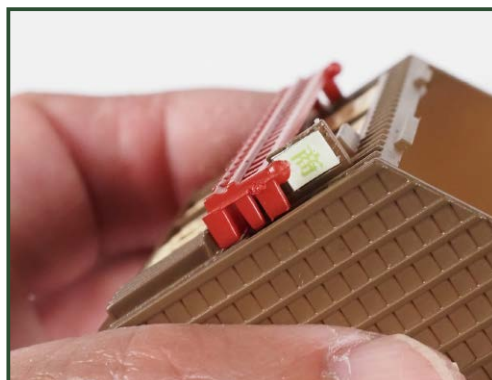
STEP 1-7



STEP1-4で組み立てた建物を基礎部から取り外す。



正面外壁右上にある袖看板部分の内側と外側に、少量の強力接着剤を塗布する。

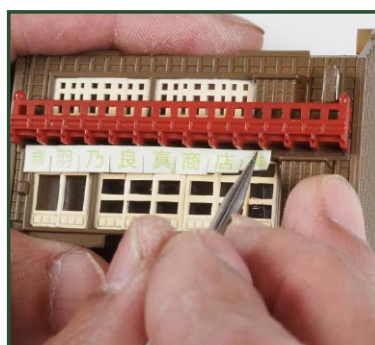


STEP1-5で切り出したラベルを貼りつける。

STEP 1-8



STEP1-6で切り出したラベルの1コマずつをピンセットなどでランダムに折り曲げて、暖簾の感じが出るようにする。



ラベルを裏返し、切込みの入っていない方の端部に、少量の強力接着剤を塗布する。

正面外壁のガラス戸の上端部辺りに、ラベルを貼り付ける。

貼り付けると写真のようになる。

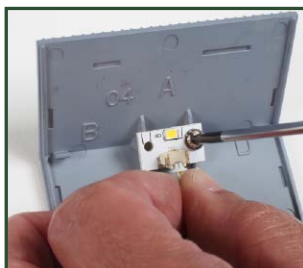


ステージ5 雑貨屋をつくる、道路を敷設する

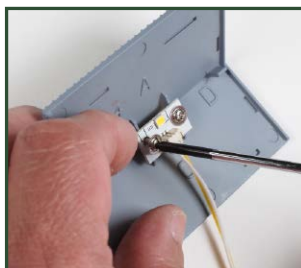
STEP1：雑貨屋をつくる



STEP 1-9
5-B 屋根の裏側の所定の位置に 5-H 照明用 LED を配置する。



2本の5-K LED固定用ネジで照明用LEDを固定する。



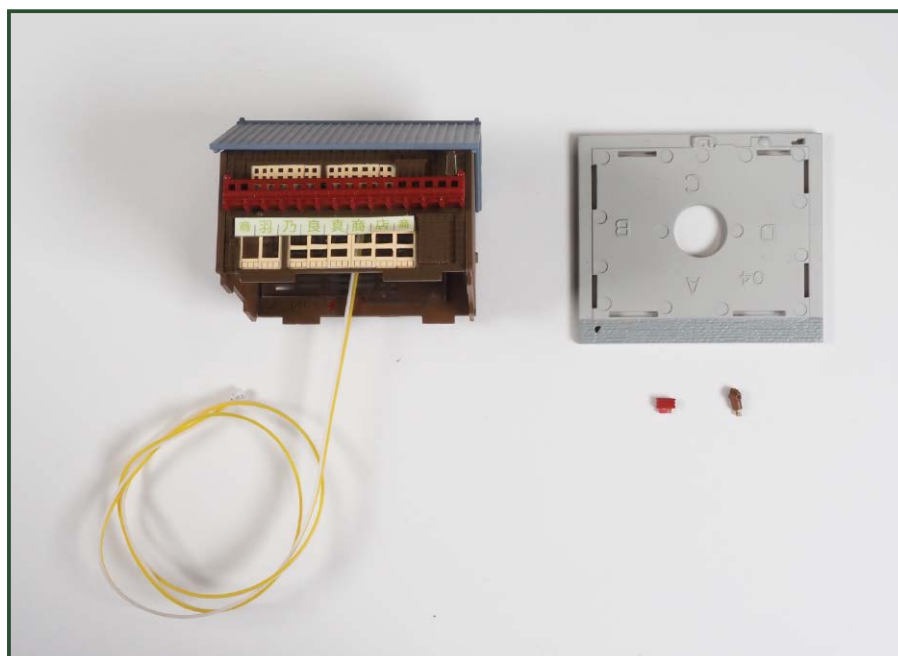
屋根に照明用 LED を取り付けると写真のようになる。



STEP 1-10



照明用 LED のケーブルを雑貨屋壁面の内側に通し、屋根裏側の爪と、左・右側外壁の爪受け部がぴったり合うようにして取り付ける。



本ステージでの雑貨屋をつくる作業はここまでだ。
5-I、5-J の装飾品は無くさないように保管しておく。



STEP2: レール道床、池・田畑の端部を削る

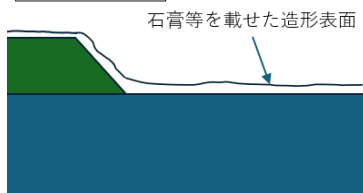
STEP 2 : レール道床、池・田畑の端部を削る

このSTEP2では、レール道床、池・田畑の端部の角をなだらかに削っていく。後のステージで地面を造形していく際に、より自然な造形をするためだ(右記概念図参照)。

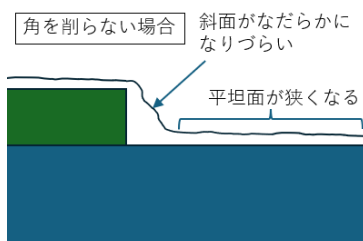
削るためには右写真のような工作用のクラフトナイフや彫刻刀を使用する。

※カッターは刃が折れた時に、飛んだ刃で怪我をしてしまう危険性があるので、使用しない事。必ず行わなければならない作業ではないので、道具を揃えるのが難しい場合や、作業が面倒という方は、このSTEP2は飛ばして、次のSTEP3「道路を敷設する」に進んでも構わない。

角を削った場合



角を削らない場合



クラフトナイフ(例)

ONE ワンポイント POINT

ナイフでレール道床や池・田畑端部の角を削るときは、自分に対しナイフの刃が外側に向くように意識して削るようにしよう。角を削るときは、ある程度力を入れて削ることになるので、刃を自分の方に向けて削っていると、すっぽ抜けたときに怪我をしてしまう危険がある。

STEP 2-1



まず、レール道床4の池に隣接する端部から角を削り落としていく。最初の慣れないうちは、少しずつ何回かに分けて削り量を増やしていく。

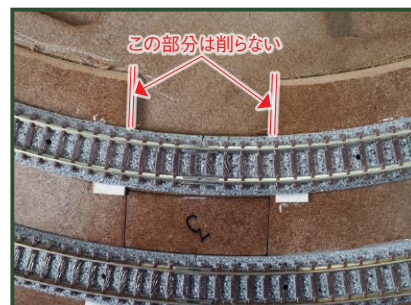
地面に対し、凡そ45度~60度くらいの角度になるように削っていく。



慣れてくれば長いストロークで削る事もできる。



写真はレール道床3の踏切のところまで削り進んだ状態。



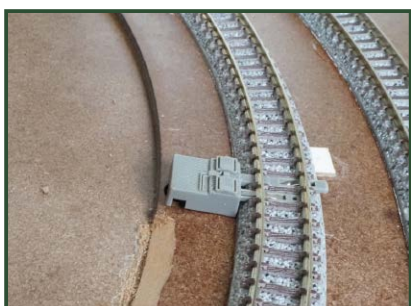
踏切部分の赤線で示した部分は削らないこと。



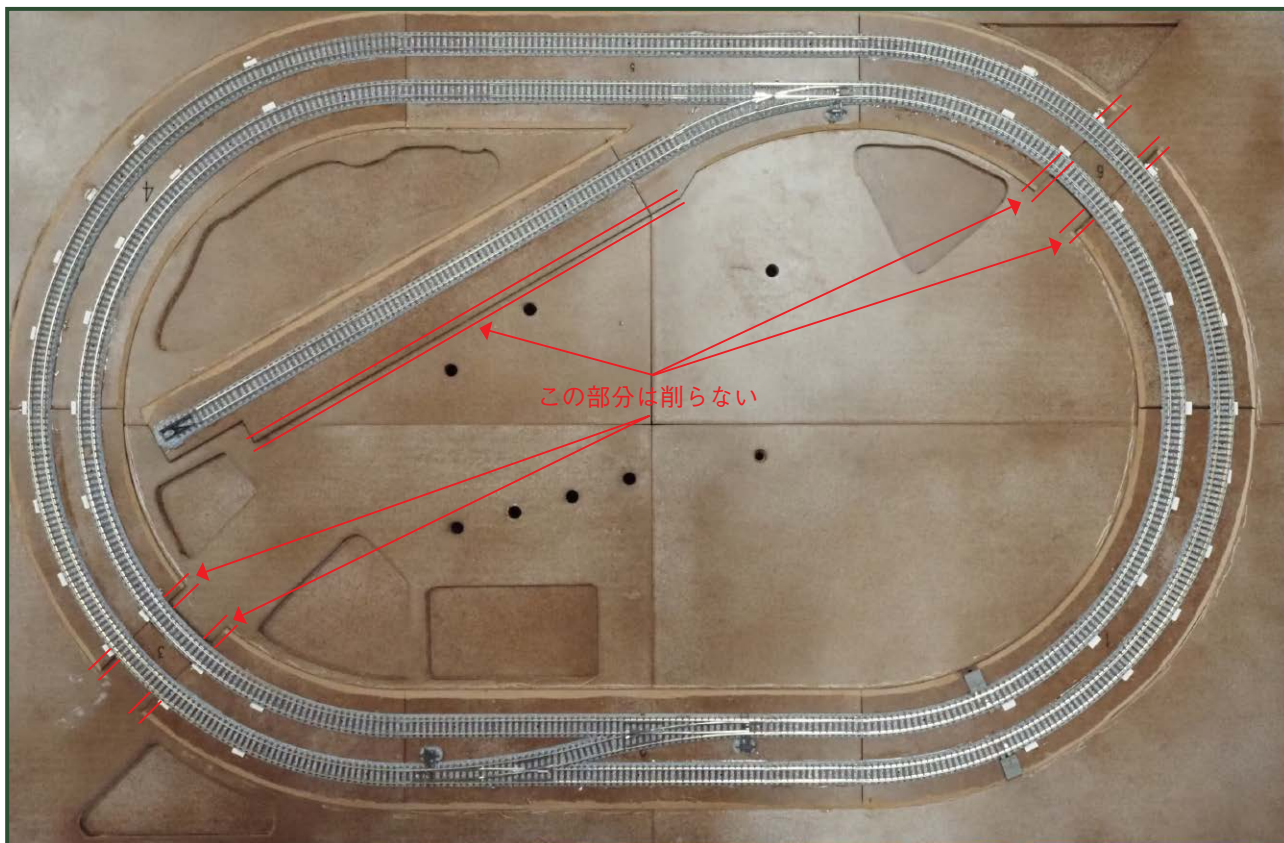
STEP2:レール道床、池・田畑の端部を削る



フィーダー部分は無理に削らなくて良い。先ずフィーダーのある部分にナイフで垂直に切込みを入れて、レール道床の角を削る際にそれ以上ナイフが先に進まないようにしてから削り出す。



削ると写真のようになる。



上の写真は、レール道床の両端部を削ったところ。

赤線で示した引き込み線内側(駅のホームが接する部分)と、踏切の赤線で示した部分は削らないこと。



STEP2:レール道床、池・田畑の端部を削る



STEP 2-3



次に池・田畑の角を削っていく。水面・地面に対し、凡そ60度くらいの角度になるように、ナイフを立てて削っていく。その際、特に池と田は水面に傷がつくと、後で塗料とニスを塗った際、傷が上から見えてしまうことがあるので、できるだけ傷をつけないように注意する。

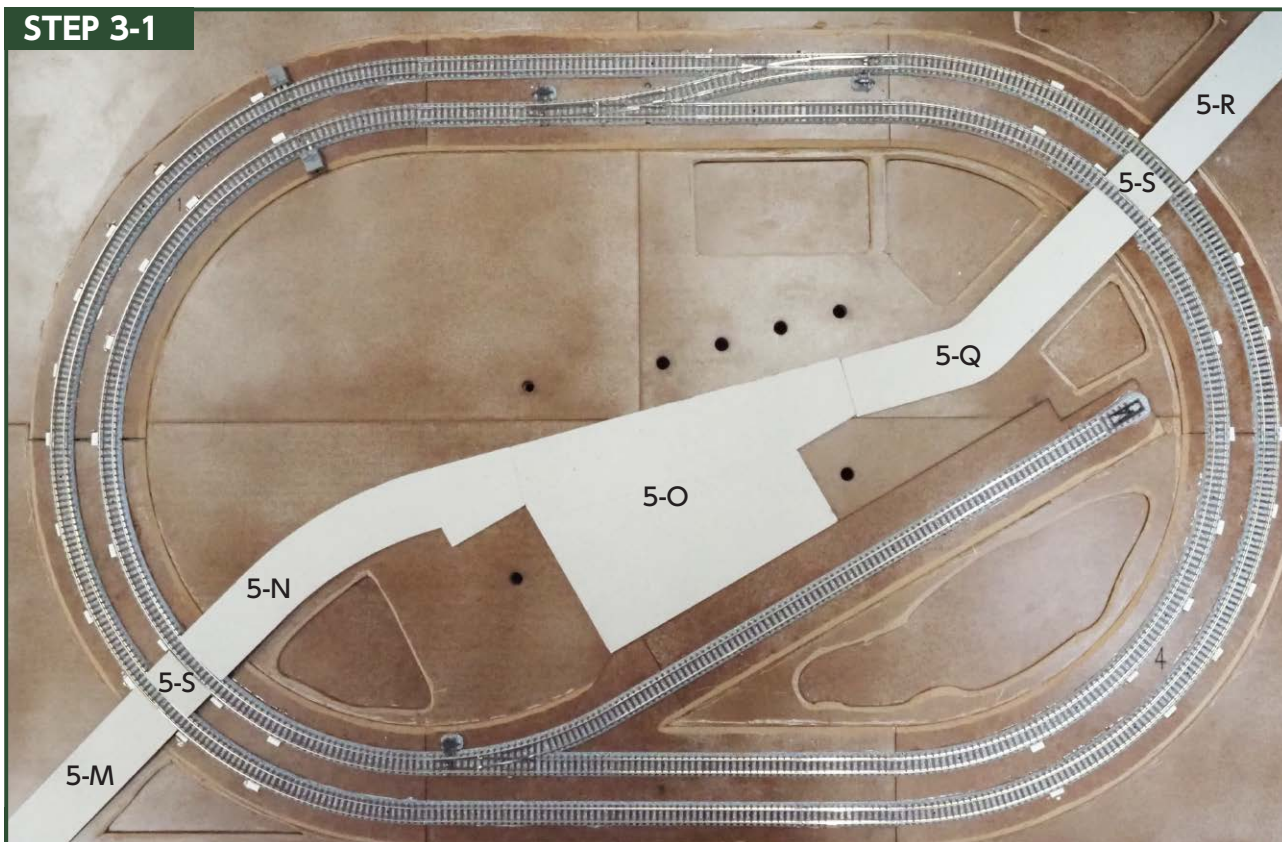


レール道床と池・田畑の端部を削ると上の写真のようになる。

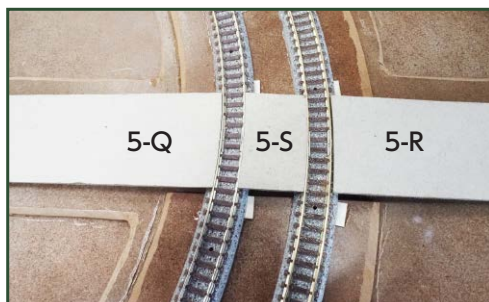


STEP3:道路を敷設する

STEP 3-1



5-M～O、5-Q～Rの道路盤①～⑤と5-S踏切渡り板2枚を上の写真のように並べる。

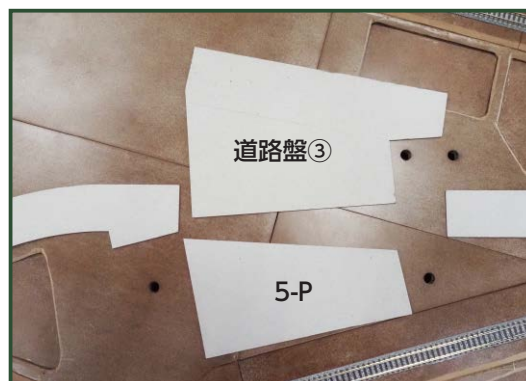


踏切部分の道路盤と踏切渡り板は枕木の上に乗せ、それぞれレールの外端部と接している。

STEP 3-2



この先の作業で、各道路盤と踏切渡り板の裏表が分かるように、表面に鉛筆で○印をつけておく。



5-P道路盤高さ調整用厚紙は、後のステップで道路盤③の下に敷くが、こちらも表面に○印をつけておこう。



STEP3：道路を敷設する

ONE ワンポイント POINT

ステージ1～2で貼ったレール道床が、ベースボードの既定の位置より多少ずれている場合でも、レール道床同士がちゃんとつながっている限り、レール道床内側の道路盤②～④の位置関係は相対的に正しい位置が保たれるので、ぴったり並べることが出来る。

一方で、2つの踏み切りの外側にくる5-M道路盤①と5-R道路盤⑤は、その端部がベースボードの端部にぴったり合わない場合がある。

道路盤がベースボードからはみ出してしまう場合は、道路盤を貼りつけた後(STEP 3-36)で、はみ出た部分をカットすれば良いが(STEP 3-36の「ワンポイント」で紹介)、道路盤がベースボードの端面に届かない場合は、5-U 道路盤長さ調整用厚紙を使って道路盤の長さを足してやる必要がある。



矢印の部分の長さが足りていない。
※丸囲みのベースボードからはみ出す部分はSTEP3-36でカットする。



足りない部分に5-U道路盤長さ調整用厚紙を当てて、裏返してからセロハンテープで固定する。はみ出たセロハンテープはカッターで切り落としておく。



道路盤長さ調整用厚紙に、道路盤端面からの延長線を鉛筆で引く。



引いた線に沿って、カッターで長さ不足部分を切り出す。



ベースボードに置いてみて、長さが足りていればOKだ。

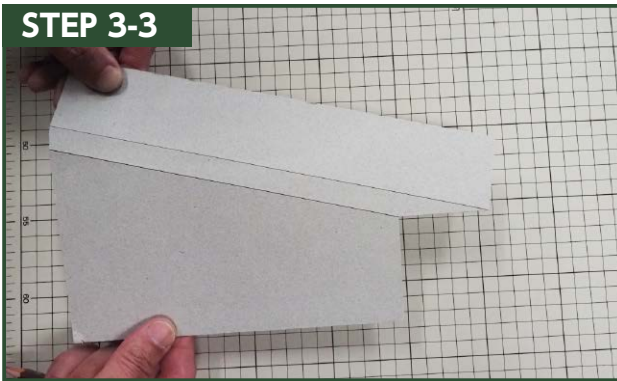
※裏面だけがセロハンテープで固定されている状態だが、STEP3-5～STEP3-6で表面に5-W両面テープを貼るので、現時点ではこのままで良い。



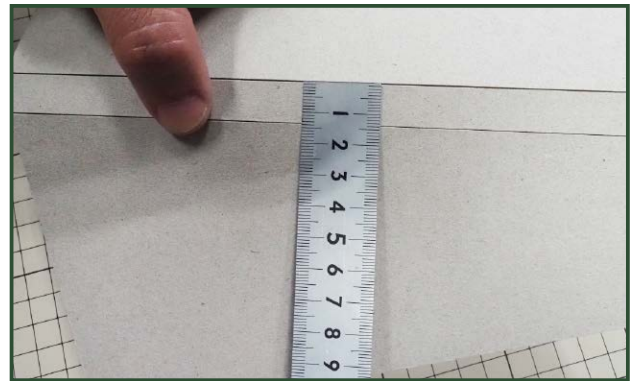
ステージ5 雑貨屋をつくる、道路を敷設する

STEP3：道路を敷設する

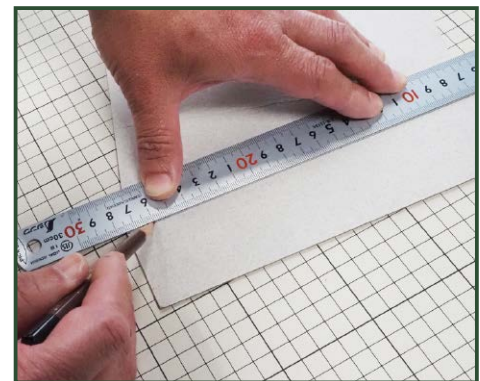
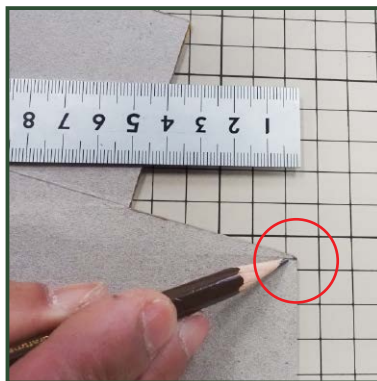
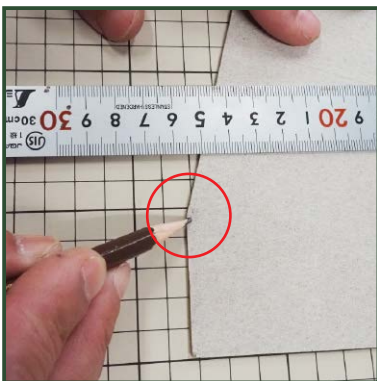
STEP 3-3



道路盤③の表面には2本の直線の切込みが入っている。

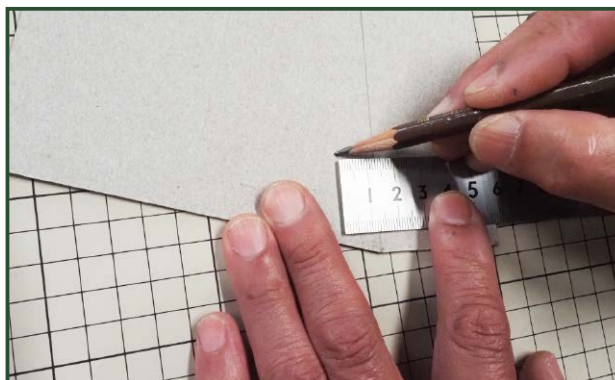


その2本の直線切込みの幅が、13.5mmくらいになっていることを確認する。



次に道路盤③を裏返し、後のSTEP3-23でこの道路盤を折る際の目安を付けるため、2本の線を引く。
 先ず、写真の赤丸で示した角の部分に定規を当てて、鉛筆で線を引く。

STEP 3-4



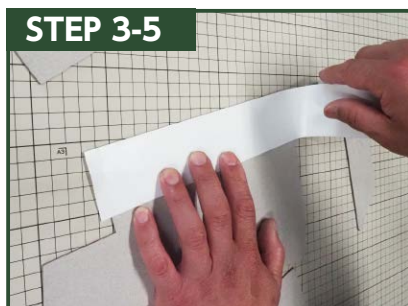
次にSTEP3-3で引いた直線から道路盤の駅舎側の方の任意の2か所に、垂直に13.5mmのところに印を打つ。



左写真の赤丸で示した角と、任意の2か所に打った印を繋いで定規を当てて、鉛筆で線を引く。

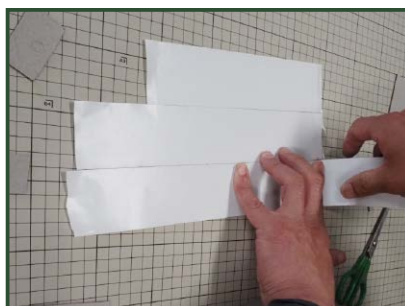


STEP3：道路を敷設する



STEP 3-5

道路盤③の表面に3-W両面テープ(50mm幅)を貼っていく。その際、両面テープが道路盤より少しはみ出るくらいに貼る。



両面テープを隙間なく貼り、道路盤全体を覆うようにする。

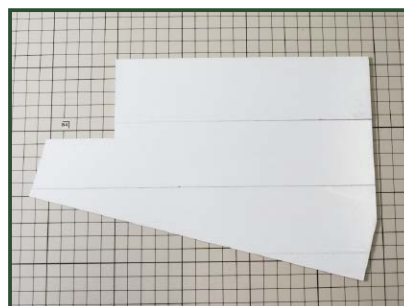
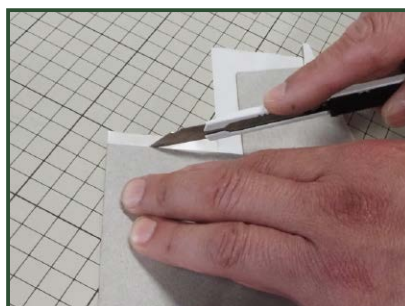
ONE ワンポイント POINT

道路盤の表面に両面テープを貼るのは、STEP3-8～9で5-L サンドペーパー(道路表面として使用)を貼るためだ。サンドペーパーを貼る事で、コンクリート道路を表現する。

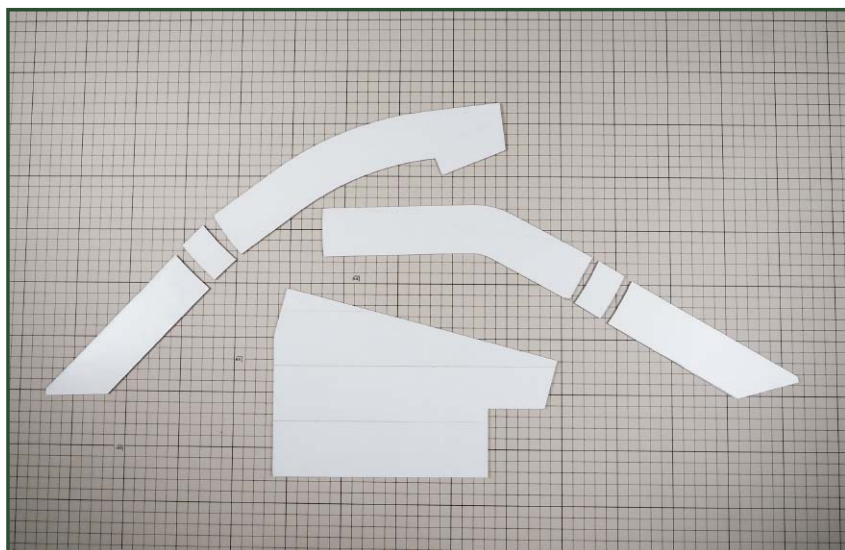


STEP 3-6

両面テープを貼った道路盤③を裏返し、はみ出ている両面テープをカットしていく。カッターを少し寝かせた方がカットしやすい。道路盤を切らないよう、慎重にカットしていこう。



カットし終わると写真のようになる。



同じ作業を繰り返し、全ての道路盤と踏切渡り板の表面に両面テープを貼ったものを作る。

ONE ワンポイント POINT

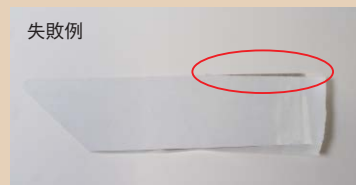
大きいパーツから順に作業をすると、切り取った両面テープの端切れを踏切渡り板用に利用できる。



ONE ワンポイント POINT

両面テープが貼られていない部分があると、STEP3-8～9でサンドペーパーがきれいに貼れないので、両面テープの貼り残し部分が無いように気を付けよう。

失敗例

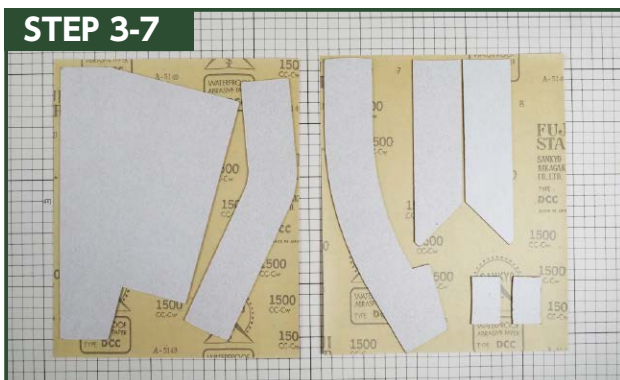


貼り残しが出てしまった場合は、貼り残しの形に切った両面テープを貼ることで対応可能だが、上手く貼れるとは限らない。最初から余裕を見て両面テープを貼るのが肝心だ。



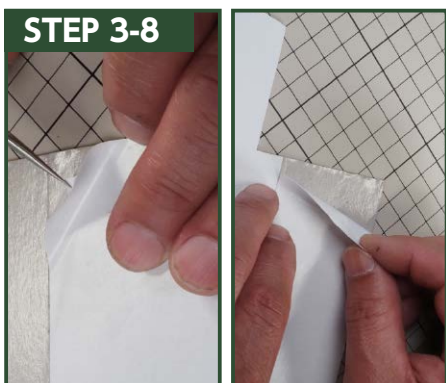
STEP3：道路を敷設する

STEP 3-7

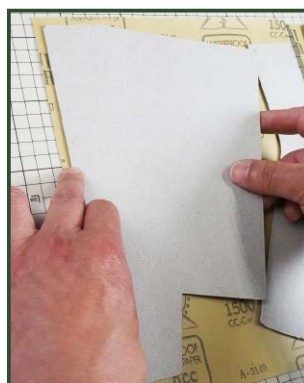


STEP3-6で両面テープを貼った道路盤と踏切渡り板を、写真のように5-Lサンドペーパー（道路表面として使用）の裏面に並べ、全てのパーツが2枚のサンドペーパーの中に収まる事を確認する。

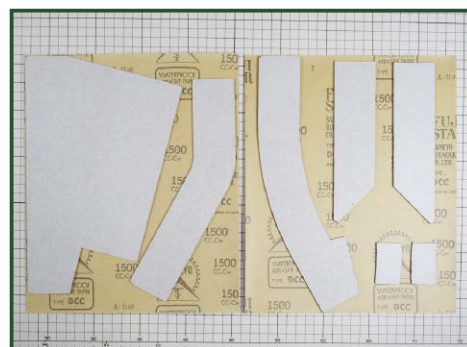
STEP 3-8



道路盤③に貼った両面テープの剥離紙をピンセットなどを使って丁寧に剥がす。



道路盤③をSTEP3-7で配置した場所に貼る。

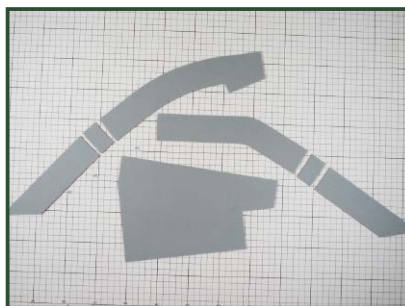


同じ作業を繰り返し、パーツがサンドペーパーからはみ出さないように注意しながら、全てのパーツを貼り付ける。

STEP 3-9



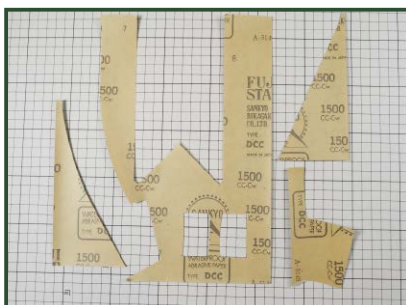
道路盤③の形に沿って貼ったサンドペーパーをカットしていく。道路盤を切らないように注意する。



同じ作業を繰り返し、全てのパーツを切り出す。切り出したパーツを並べると、写真のようになる。

ONE ワンポイント POINT

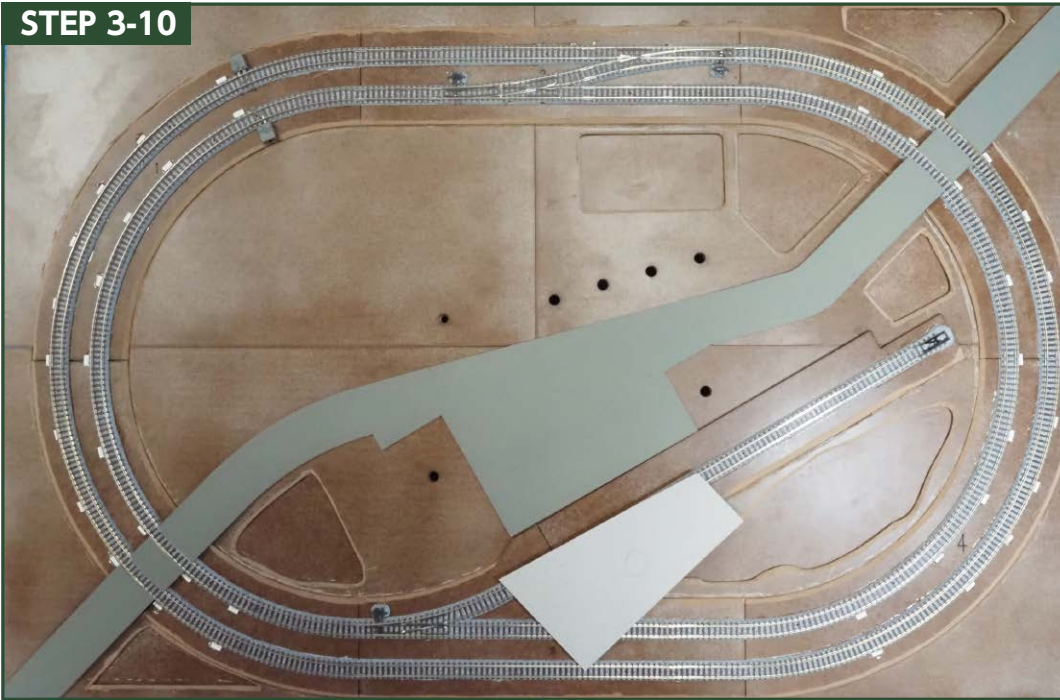
本シリーズでは、昭和40年代～50年代に主流だったコンクリート道路の雰囲気再現するために、灰色の1500番のサンドペーパーを道路表面用に使用している。もう少し粗く黒っぽいサンドペーパーを使用すると、アスファルト道路の雰囲気を出すことができる。



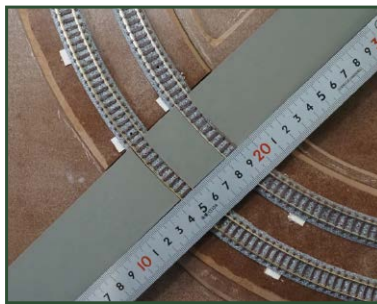
切り出した後のサンドペーパーの端切れは後のSTEPで山や地面の造形、車両への給電不良時のレール磨き等にも活用できるので、捨てずに保管しておこう。

STEP3：道路を敷設する

STEP 3-10



STEP3-9で切り出した道路盤と踏切渡り板を写真のように並べてみる。
また、道路盤高さ調整用厚紙にはサンドペーパーが貼られていないことを確認しておく。



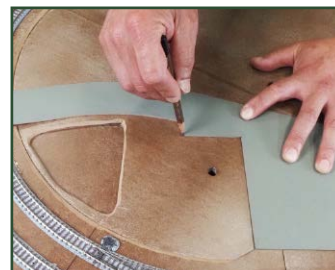
2か所の踏切部分は、道路盤と踏切渡り板がレールの外側にきっちり合っていることと、きっちり直線が取れていることを確認する。

ONE ワンポイント POINT

道路盤①と⑤は先端がベースボードから少しはみ出してしまう場合があるが、その場合はその部分を後でカットするので、この段階では気にしなくて良い。



STEP 3-11



STEP3-10で全ての道路盤が正しく配置されたことを確認したら、道路盤の縁の位置が後で分かるように鉛筆で線を引いておく。



STEP3：道路を敷設する



STEP 3-12

踏切部分の道路盤と踏切渡り板を裏返し、それぞれの端部に、レールの曲線に沿って大体3mm程度の幅になるように鉛筆で線を引く。



引いた線に沿って、道路盤の厚みの半分くらいの深さで切込みを入れる。



最初にピンセットでボール紙の部分をざっくりと剥ぐ。



次にカッターの刃先を左右に動かしながら、剥いだ面が平坦になるよう整えていく。



剥いだ部分が、道路盤の厚みの1/2～1/3くらいになるようにする。



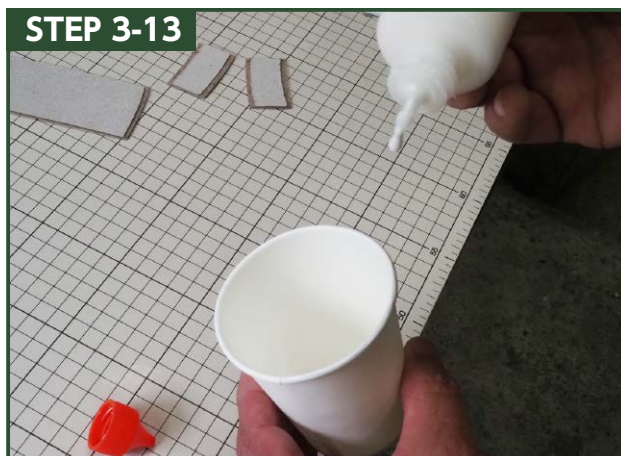
道路盤と踏切渡り板を表に返し、所定の位置に置いてみる。その時、レールの頂部が道路盤・踏切渡り板の表面より僅かに上に出ていなければならない。上から指の腹で軽く抑えた時に最初にレールが指に当たるくらいに調整する。

ONE ワンポイント POINT

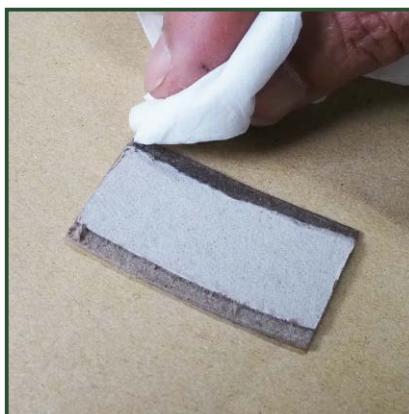
道路面は必ずレール頂部より低くする必要がある。道路面がレール頂部より高いと、車両が道路面に乗り上げた際、脱線の原因になってしまうからだ。



STEP3：道路を敷設する



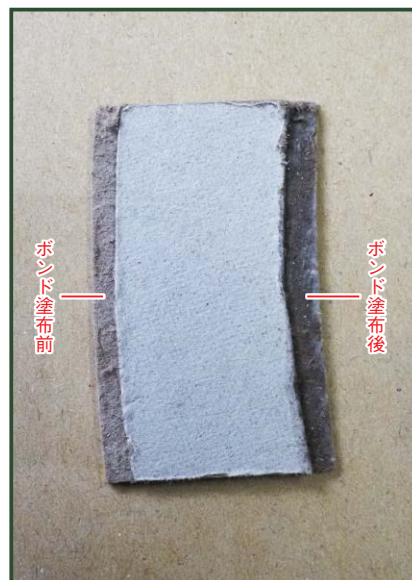
紙コップなどを用意し、少量の木工用ボンドと、同量より少し少ないくらいの水を混ぜ合わせて薄めのボンドを作る。紙に乗せた時、少し白いくらいの濃度で良い。(左写真参照)



STEP3-12で作業した道路盤と踏切渡り板の端部のボール紙を剥いだ部分に、STEP3-13で作った薄めのボンドを綿棒の先に付けて塗布していく。

これは、ボール紙を剥いだ部分の紙の繊維が毛羽立ったり、ほつれたりしないようにするためだ。

剥いていない面についたボンドはティッシュで拭き取る。



写真の踏切渡り板の右側が薄めたボンドを塗布した後。左側が塗布する前だ。右側は紙の繊維が毛羽立っていないのが分かる。

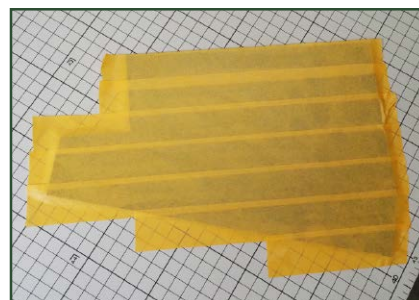
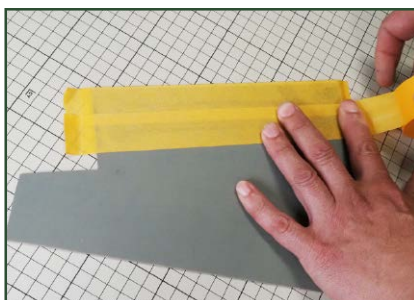


ステージ5 雑貨屋をつくる、道路を敷設する

STEP3：道路を敷設する



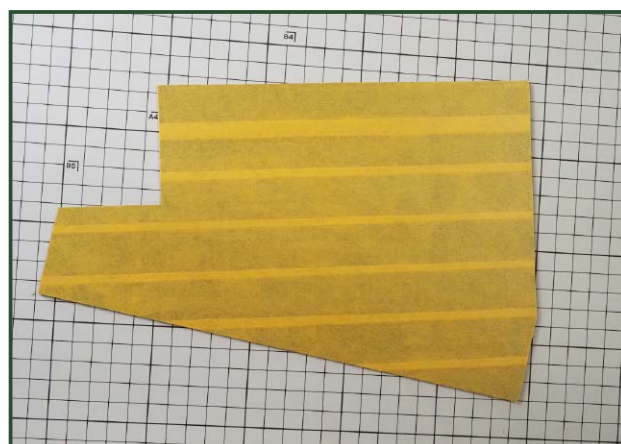
STEP 3-15



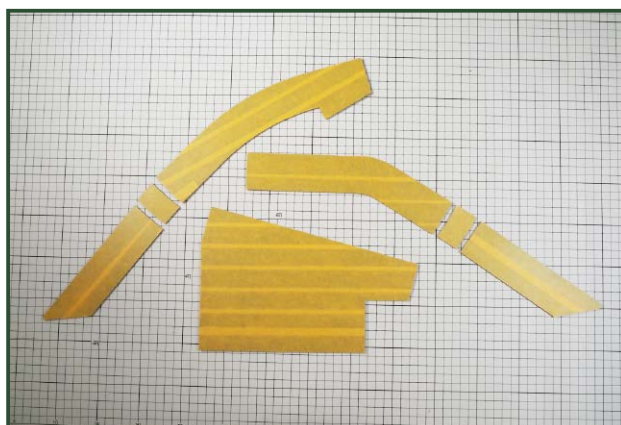
道路盤③に5-Vマスキングテープ(30mm幅)を貼っていく。これは今後の作業中、道路表面に傷がつかないように保護するためのものだ。マスキングテープ同士が被っても構わないので、マスキングテープを隙間なく貼っていく。



STEP 3-16



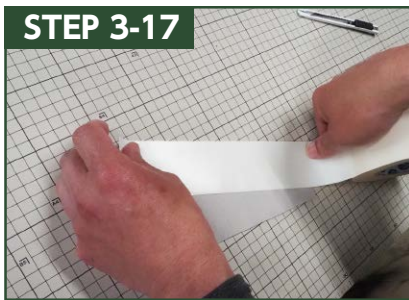
マスキングテープを貼った道路盤③を裏返し、はみ出しているマスキングテープを道路盤の形に沿ってカットしていく。道路盤を切らないように注意する。



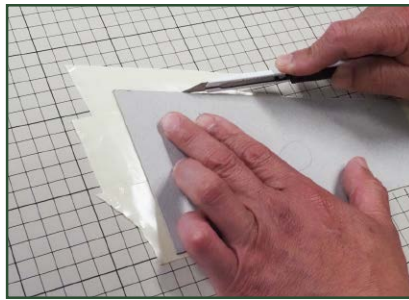
同じ作業を繰り返し、全てのパーツが、その形通りにマスキングテープが貼られた状態にする。



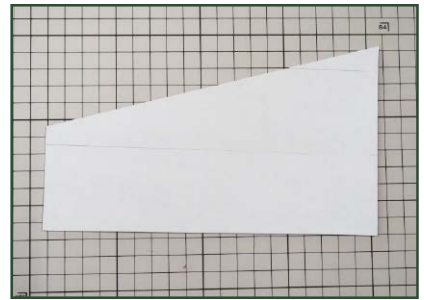
ステージ5 雑貨屋をつくる、道路を敷設する STEP3：道路を敷設する



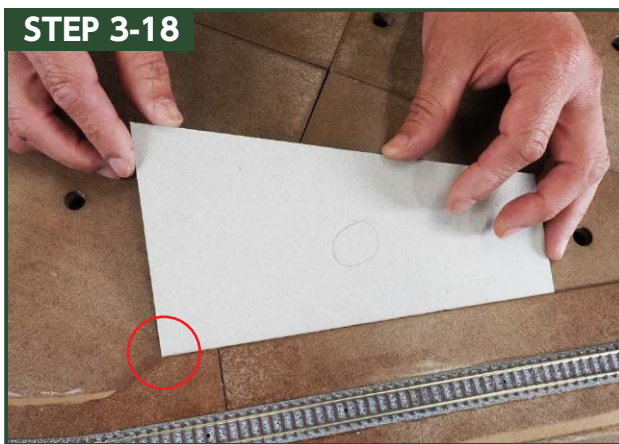
道路盤高さ調整用厚紙を用意し、その裏面に両面テープを貼っていく。



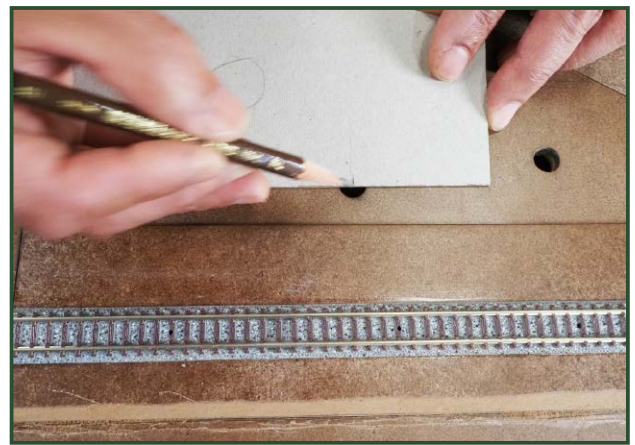
表面に返し、はみ出た両面テープを丁寧にカットする。



写真はカット終了後の厚紙の裏面を見たところ。



写真で示した赤丸の位置に厚紙の角を合わせて配置してみる。



配置した厚紙をレール道床から垂直方向に離し、LEDケーブル配線用の穴が見えたら、厚紙の縁に穴の中心に当たるところに鉛筆で印をつける。



レール道床から該当のLEDケーブル配線用の穴の中心線までの距離を測る。(上の写真では凡そ16mmの距離になっている)

※レール道床の貼り付け作業によっては、距離に多少の誤差が出る。



厚紙の縁に印をつけたところから垂直に、先ほど測った距離の分だけ鉛筆で線を引いておく。



ステージ5 雑貨屋をつくる、道路を敷設する

STEP3：道路を敷設する

STEP 3-19



厚紙を裏返し、両面テープの剥離紙全てを丁寧に剥がす。



写真の赤丸で示した位置に厚紙の角を当て、そこから伸びる一辺がレール道床にぴったり合うように厚紙を貼り付ける。

STEP 3-20



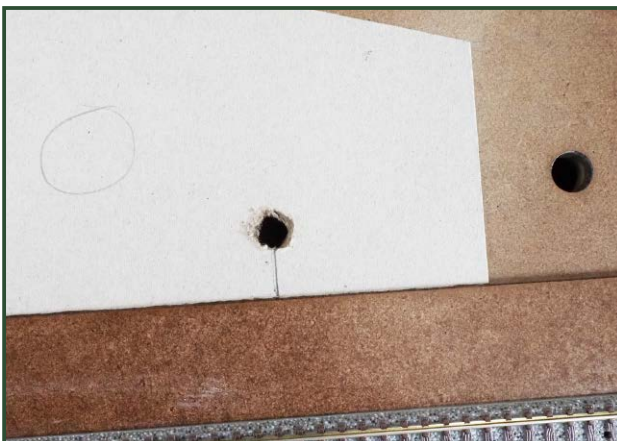
STEP3-18で引いた線の端部にカッターの刃先を当て差し込む。



次に十字になるように再度カッターを差し込む。



十字に切込みを入れた中心から、徐々に穴を広げていく。



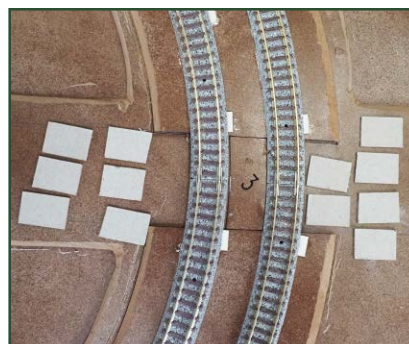
ベースボードのLEDケーブル配線用の穴と同じ大きさの穴を厚紙に開けたら、この作業は完了だ。



STEP3：道路を敷設する



STEP 3-21



5-T道路盤傾斜部固定用厚紙16枚の内、12枚を用意し、1枚をだいたい半分の長さに切っていく。

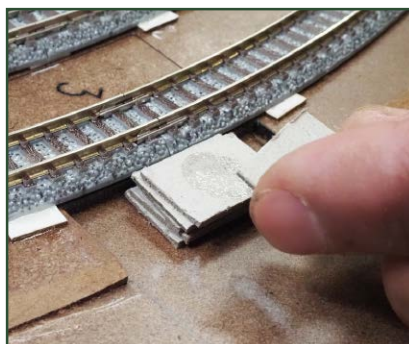
※16枚の内、残り4枚は後のSTEPで使用するので、切らずに保管しておく。

半分の長さに切った厚紙をレール道床③の内と外に6枚ずつ用意する。

※同様にレール道床⑥の内と外にも6枚ずつ用意しておこう。

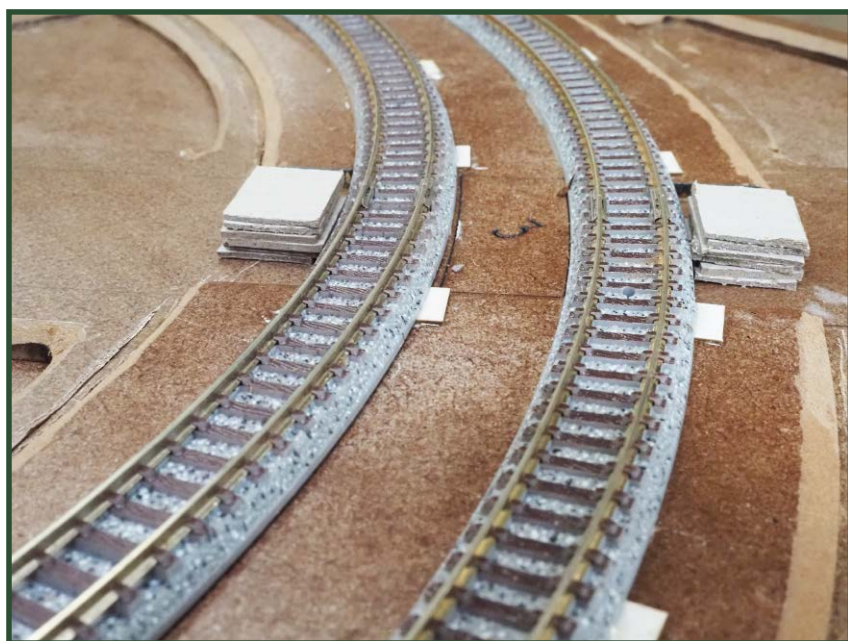


STEP 3-22



厚紙に少量の強力接着剤を塗布し、写真の位置に6枚積み重ねて固定する。

ある程度真っすぐ積み上がるように調整しよう。



レールの内と外に6枚ずつ積み重ねて固定すると左の写真のようになる。

※同様にレール道床⑥の内と外にも6枚ずつ積み重ねて固定しておこう。



ステージ5 雑貨屋をつくる、道路を敷設する

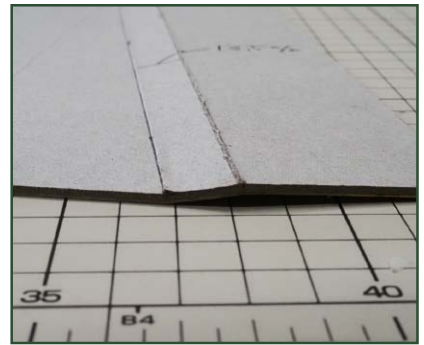
STEP3：道路を敷設する



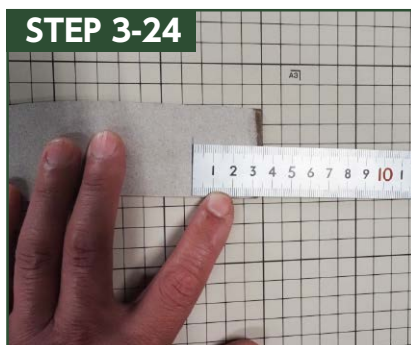
STEP3-3～4で罫線を引いた道路盤③を用意して、道路盤裏面の写真で示した部分に定規を当て、谷折りにする。



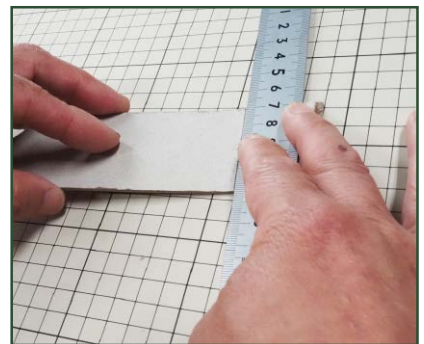
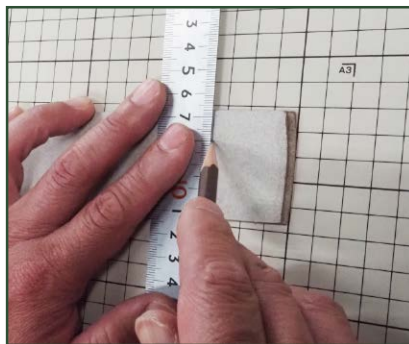
次に道路盤を表に返し、写真で示した部分に定規を当てて、谷折りにする。



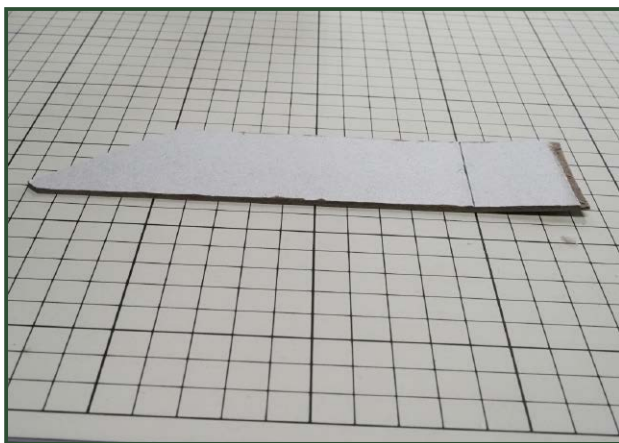
2回の谷折りを行う事で、道路盤③は写真のようになる。



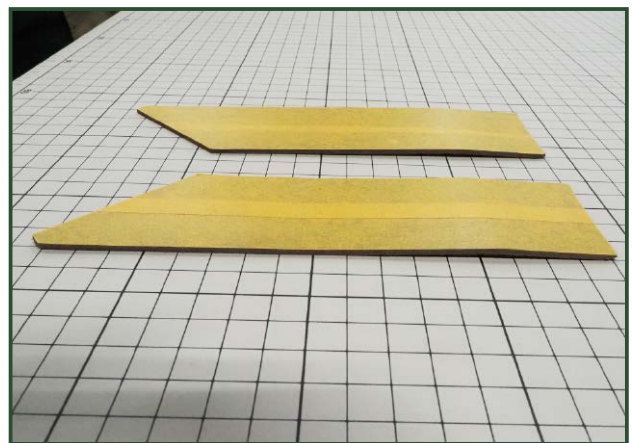
道路盤①を用意し、裏返したら、踏切部でレールに当たる先端から35mm辺りの部分に鉛筆で線を引く。



引いた線に定規を当てて、少し谷折りにする。



折ると写真のようになる。

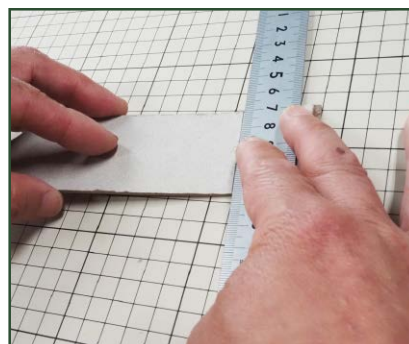
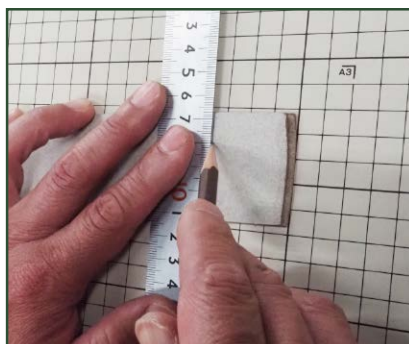
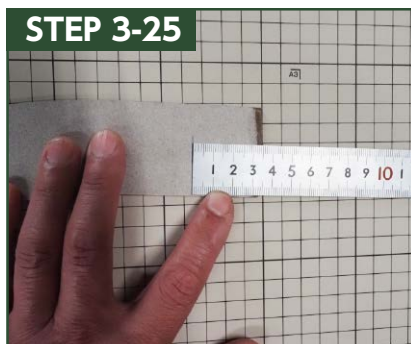


同じ作業を道路盤⑤にも施す。

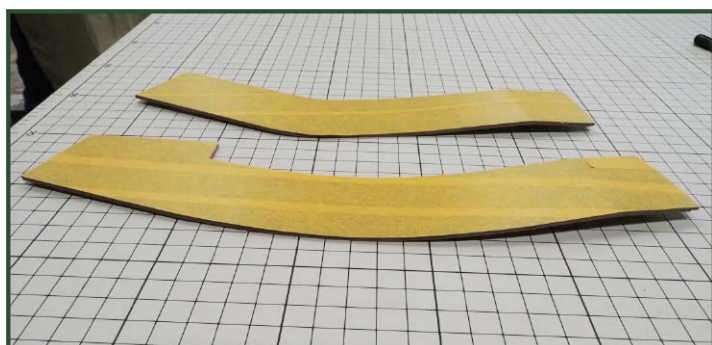
写真は折りを施した道路盤①と⑤を並べたところ。



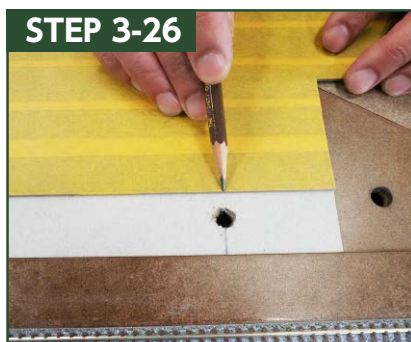
STEP3：道路を敷設する



STEP3-24と同様に、道路盤②と④も踏切部でレールに当たる部分から35mm辺りに線を引き、定規を当てて少し谷折りにする。

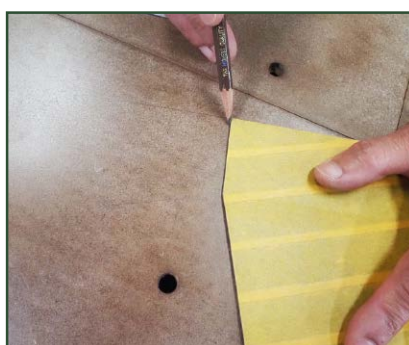


写真は折りを施した道路盤②と④を並べたところ。



STEP3-20で貼り付けた道路盤高さ調整用厚紙の上に道路盤③を配置し、写真の縁の部分にLEDケーブル配線の穴の中心位置を示す印をつける。

印を付けた縁から垂直に、STEP3-18で測った距離(本作り方ガイドでは16mm)のところに印をつける。



道路盤高さ調整用厚紙の上に道路盤③をぴったり合わせて置き、道路盤③の形に合わせてベースボードに鉛筆で線を引く。

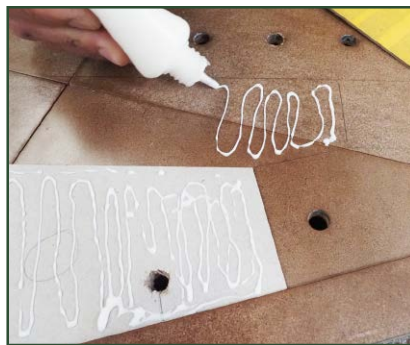


STEP3：道路を敷設する

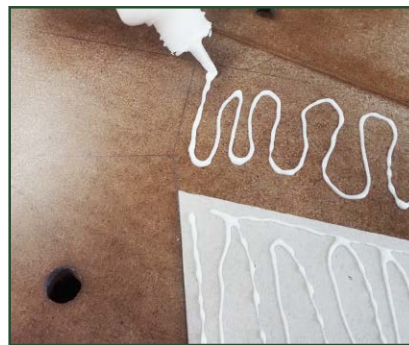
STEP 3-28



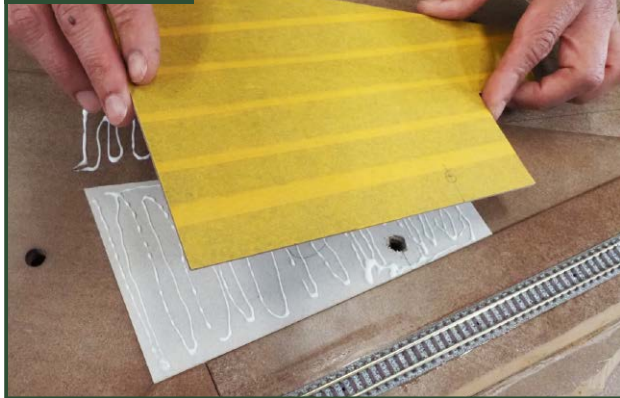
道路盤③を一旦外し、道路盤高さ調整用厚紙の上に木工用ボンドを塗っていく。



次にSTEP3-27で引いた線からはみ出さないように、ベースボードに木工用ボンドを塗っていく。



STEP 3-29



道路盤③をSTEP3-27で置いた位置とぴったり合うように注意して貼り付ける。



STEP 3-30



次に道路盤②を取り付ける位置のベースボードに、STEP3-11で引いておいた線からはみ出さないように、木工用ボンドを塗っていく。



STEP3-22で取り付けた道路盤高さ調整用厚紙の上にも木工ボンドを塗る。



道路盤②の枕木に乗る部分にも木工用ボンドを塗る。



STEP3：道路を敷設する

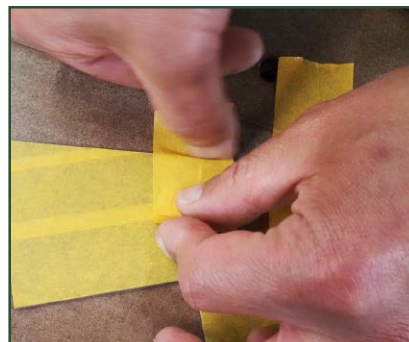
STEP 3-31



道路盤②の枕木に乗る部分を写真のように置く。



次に道路盤③の端部とぴったり合うように調整する。



位置が決まったら、ずれないようにマスキングテープで留める。



もう一方の端部も、レール部分に合っていることを再度確認して、マスキングテープで固定する。



道路盤②を道路盤③側から押さえて貼っていった時、踏切側に道路盤②が浮き始める辺りをマスキングテープで留める。



写真のように、道路盤の位置がずれないように、他にも何か所かマスキングテープで留めておく。

STEP 3-32



半分にカットしていない道路盤傾斜部固定用厚紙を1枚用意し、両面に木工用ボンドを塗る。

STEP 3-33



道路盤②が踏切側に向けて浮き上がり始める位置に、STEP3-32で木工用ボンドを塗った厚紙を写真のように挿入する。

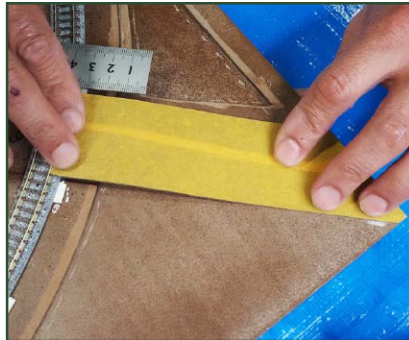
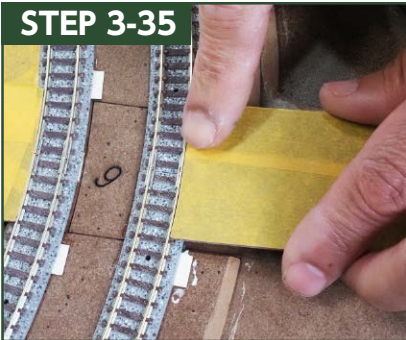
STEP3：道路を敷設する

STEP 3-34



STEP3-30の作業と同様に、道路盤①を取り付ける位置の道路盤傾斜部固定用厚紙とベースボード、更に道路盤①の枕木に乗る部分に木工用ボンドを塗る。

STEP 3-35



道路盤①の踏切側端部と、ベースボードの端部の位置を合わせて置いてみる。

その時、道路盤①が道路盤②としっかり直線が取れていることを確認する。



道路盤①を上からおさえてベースボードに貼り、位置がずれないように両端部にマスキングテープを貼っていく。

STEP 3-36

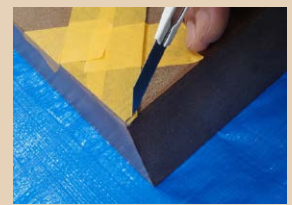


STEP3-32～33の作業と同様に、道路盤傾斜部固定用厚紙の両面に木工用ボンドを塗り、道路盤①が踏切に向かって浮き始める位置に挿入する。



ONE ワンポイント POINT

ベースボードから道路盤がはみ出た場合は、道路盤が完全に接着した後に、はみ出た部分をカッターで切り落とす。



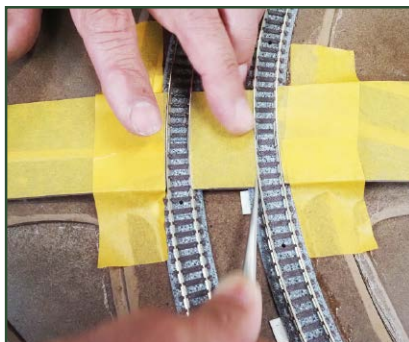


STEP3：道路を敷設する

STEP 3-37



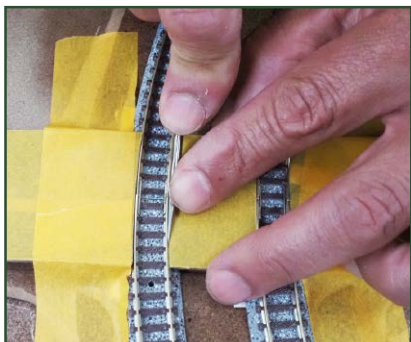
踏切渡り板の枕木に乗る両端部に木工用ボンドを塗る。



レールにボンドが付かないよう注意しながら、踏切渡り板を内周・外周レールの間に置く。

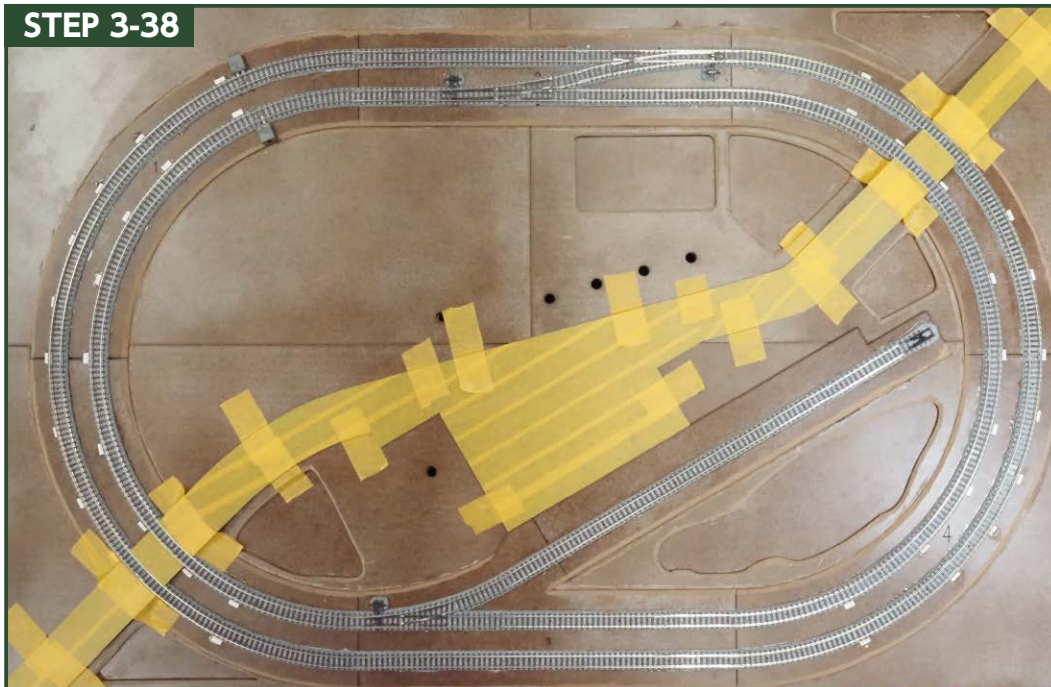


定規を当て、道路盤①②と踏切渡り板が直線に並ぶよう、位置を調整する。



位置が決まったら、踏切渡り板の両端部を上から押さえて枕木部分に貼り付ける。渡り板が浮いてしまうようなら、ピンセットなどで、渡り板端部をレール頂部の下に押し込むようにすると良い。

STEP 3-38



STEP3-30～37と同様の作業を行い、道路盤④と⑤およびもう一方の踏切渡り板を取り付ける。全ての道路盤と踏切渡り板を取り付けると、上の写真のようになる。

全ての道路盤、踏切渡り板が完全に接着・固定されるまで、位置がずれないように注意して保管しておこう。



ステージ5 雑貨屋をつくる、道路を敷設する

STEP4: 点灯テスト

STEP4:点灯テスト

STEP 4-1



5-Xバッテリーボックスの蓋を開け、乾電池を入れたら蓋をする。
写真のように単三形乾電池を入れる。
+極と一極の位置関係に注意する。



STEP 4-2



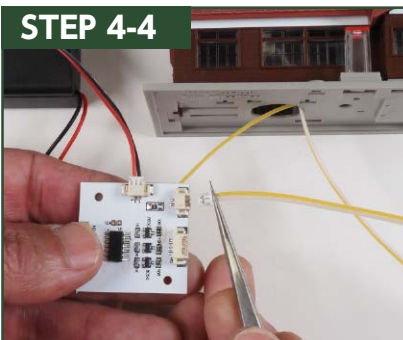
バッテリーボックスのケーブル端子を5-Yテストボードの写真で示すソケットに挿入する。

STEP 4-3

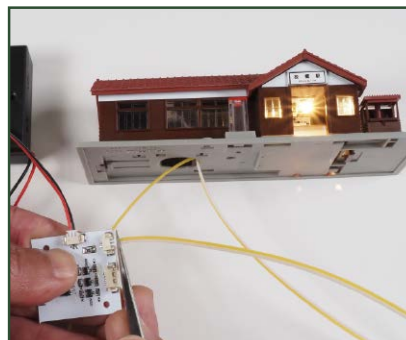


ステージ1から本ステージまでで組み立てた建物を全て用意する。

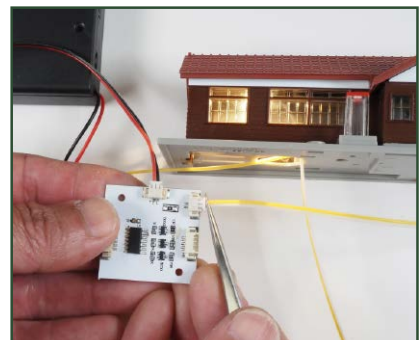
STEP 4-4



まず駅舎のLEDケーブル1本の端子をテストボードの写真で示すソケットに挿入する。



駅舎の一方の照明用LEDが点灯していることを確認する。



ケーブル端子を一旦抜き、もう一方のケーブル端子をテストボードに挿入する。もう一方の照明用LEDが点灯していることを確認する。



ステージ5 雑貨屋をつくる、道路を敷設する STEP4: 点灯テスト

STEP 4-5



ONE ワンポイント POINT

建物の壁と壁の貼り合わせ面から光が漏れている場合は、建物の内側から壁の貼り合わせ箇所に市販のアルミテープを貼るか、黒色のプラモデル用塗料を塗布する等で対策を取ろう。



STEP4-4の作業を繰り返し、全ての建物の照明用LEDが点灯することを確認する。今後のステージで作成する建物も、必ず照明用LEDが組み込まれるので、組み立てた後には点灯テストをしておこう。

本ステージの完成

これで本ステージでの作業は終了だ。

製作物と、本ステージで使わなかったパーツは紛失しないように、次のステージまで大切に保管しておこう。

